

2023年度(令和5年度) 学校評価自己評価表

神辺中学校区	校番 80	福山市立道上小学校
最終更新日	2023年(令和5年)4月14日	

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>○多様な児童生徒に対して個別最適な学びと協働的な学びの充実を図りながら、「子ども主体の学び」全教室展開に向けた取組を進めている。</p> <p>○異学年交流等、望ましい集団づくりに向けた教育活動を進め、児童生徒の自己肯定感や自己有用感を高める工夫をしている。</p> <p>●すべての子どもたちが「学びが面白い」と実感し、安心して学ぶ子どもの居場所づくりの取組を進めてほしい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <p>○自分で目標を立て、友達と学び合いながら「考える、選ぶ、決める」経験を積み重ねることにより、「学びが面白い」と実感する児童生徒が増えてきた。</p> <p>○自分たちが学校を創る主体となり、試行錯誤しながら創意工夫することを楽しむ児童生徒の姿が見られる。</p> <p>●安心して学校生活を送ることができる環境づくりに継続して取り組んでほしい。</p>	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>コミュニケーション 人としての思いやり</p> <p>共に学び、共に支え、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒</p> <p>○児童・生徒が、授業での学びを日常の様々な場面で活用し行動できるようになる。</p> <p>○児童・生徒が、自己肯定感・自己有用感を高める。</p> <p>○校種、教科・領域をこえた合同研修等を行う。</p>
--	--	--	--

III 自校

<p>ミッション</p> <p>社会に貢献できる人づくり</p>
<p>学校教育目標</p> <p>豊かな心をもち 共に高まり合う 子どもの育成</p>
<p>現状</p> <p><児童></p> <p>○課題発見・解決学習、授業後の自己の成長を振り返る学びを継続することにより、学びの面白さを実感し、自己肯定感が向上した児童が増えた。</p> <p>○「学び合い」を通して、他者とのつながりを大切にする児童が増えている。</p> <p>●習得した知識、技能を活用する力が十分ではないため、カリキュラム・マネジメントの充実を図る必要がある。</p> <p><授業></p> <p>○授業公開や事前・事後の協議会を通して、「選ぶ・つながる・広がる授業づくり」に向けた取組は広がってきている。</p> <p>●児童一人一人の学習状況を把握し、個に応じた手立てを工夫するなど、学力向上につなぐ授業づくりが必要である。</p>

<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>共に学び、共に支え、未来を切り開き、地域・社会に貢献する生徒</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>レベル1</th> <th>レベル2</th> <th>レベル3</th> <th>レベル4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。</td> <td>他者の意見の相違を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。</td> <td>意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。</td> <td>自己の対人関係や社会(集団)とのかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。</td> </tr> <tr> <td>② 感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。</td> <td>時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。</td> <td>何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。</td> <td>自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。</td> </tr> <tr> <td>③ 自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたわり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。</td> <td>多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じるすることができる。</td> <td>他者や社会(集団)に対して、自分ができていることを考え貢献できる。</td> <td>他者や社会(集団)に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。</td> </tr> </tbody> </table>	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	① 他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。	他者の意見の相違を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。	自己の対人関係や社会(集団)とのかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。	② 感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。	時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。	何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。	自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。	③ 自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたわり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。	多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じるすることができる。	他者や社会(集団)に対して、自分ができていることを考え貢献できる。	他者や社会(集団)に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。
レベル1	レベル2	レベル3	レベル4														
① 他者の意見を聞き、自分の考えを伝えることができる。	他者の意見の相違を受け止め尊重することができ、協力・協同して参画できる。	意見の相違に対して代案を示すなどして合意形成し、積極的に社会(集団)を形成することができる。	自己の対人関係や社会(集団)とのかわりに対する振り返りができ、適切に改善できる。														
② 感情や行動を律し、ルールやマナーを守ることができる。	時と場に応じた適切な言動を選択し、成長のために進んで学ぶことができる。	何事においても、目標設定ができ、自己の可能性を信じて主体的に挑戦することができる。	自己の言動に対する振り返りができ、適切に改善できる。														
③ 自分や他者を大切に思うことができ、親切にし、いたわり、励まし、助け合い、協力し合うことができる。	多くの善意や支えに気づき、社会(集団)や自然の恵みに対して「ありがたい」と感じるすることができる。	他者や社会(集団)に対して、自分ができていることを考え貢献できる。	他者や社会(集団)に対する自己の在り方を振り返り、適切に改善できる。														
<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>心豊かに 協働的に学ぶ児童の育成 ～選ぶ・つながる・広がる授業づくりを通して～</p> <p>選ぶ・つながる・広がる授業づくりに向けた教材研究を通して、自分の考えをもち、他者と関わり合いながら伸びていく子どもの姿と一人一人の学びを促す教師の役割を追究する。</p>																
<p>めざす授業の姿</p>	<p>◎「やってみたい」「なぜだろう」と思ったことをもとに、児童が主体的に課題設定する場がある。</p> <p>◎自分の考えを授業の中でしっかり持ち、児童が自発的に質問をしたり、友達と話し合って考えを深めたりしようとしている。</p> <p>◎児童が自らの学びの伸びについて自覚している。</p> <p>◎新たな学びに向かおうとしている。</p>																

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)					
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
2	「子ども主体の 学び」に向けた 授業づくりの推 進	★	見 直 し	○児童の学 びを促す ための教 師の役割 を理解し、 具体的な 実践を推 進する。	・教材研究や研究授 業を通して、児童 の学びを進める具 体的な実践につい て共有する。	・授業公開を年間一人1回 行い、授業公開に学期に 1回以上参加する。 ・子どもの姿をイメージした 教材研究を行う時間を月 2回設定する。									
					・児童が自らの学び について実感でき る取組を行う。	・各教科において、児童自 身が授業の終わりに、学 びや伸びに視点を当てた 振り返りをすることがで きる児童を80%以上に する。 ・単元末テストの知識・技能 の領域において、平均点 が50%未満の児童の割 合を20%未満にする。									
2	人と人のかか わりを重視した 教育活動の推 進		見 直 し	○他者とのか かわりを通 して自らが 役立ってい るという実 感を高め る。	・異学年交流を昨年 度より活発なものに するために校内の 諸活動を工夫し、有 意義なものにする。	・自校アンケートの「自分 の良さは、周りの友達に 分かってもらっている と思う」「自分は人の役 に立っていると感じる ことがある」の項目に おいて、肯定的な回答 の割合を前年度以上 にする。 ・共に活動した異学年 の児童との間で、肯定 的相互評価の場を、学 期に1回以上は設ける。									
2	自己の健康と 体力を高める 取組の推進		継 続	○意欲的に 運動に取 り組む児 童を増や すとともに、児童	・児童の状況を把握 し、学年に応じて準 備運動や補強運動 などの取組を工夫 する。また、日常的 な運動を勧め、児童 が意欲的に取り組 むようにする。	・全児童が自己目標に 取り組んでいる。 ・新体力テスト結果にお いて県平均を上回る種 目を前年度以上にす る。(5年生)									

			の体力向上を図る。 ・体育科の授業時間や休憩時間での体力づくりの取組を行う。	・自校アンケートの「体育科の授業が楽しい」「授業や外遊びを通して、自分の体力がついた」の項目において、肯定的な回答の割合を前年度以上に する。 ・「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツが「嫌い・やや嫌い」と回答した児童の割合を前年度以下にする。										
2	信頼される学校づくりに向けた学校組織づくり	見直し	○保護者・地域対応の充実を図る。	・分掌・担当等の主体的な動きを生かしながら、組織的な取組を継続する。	・学校評価アンケートの「児童は楽しく学校へ通っている」「学校の取組に満足している」の項目において、肯定的な回答の割合を前年度以上にする。									
			○業務改善の推進と教職員の仕事に対するやりがいと充実感の向上を図る。	・教職員のやりがいにつながる教材研究の時間を確保する。 ・教職員一人一人が働き方改革の意義を理解し、自らの目標を立て、実践する。	・福山 100 NEN教育アンケートの「授業づくりを行う時間が確保できている」の項目において肯定的な回答を80%以上に する。「仕事に意義とやりがいを感じている」「仕事の中で充実感を得られている」の項目において肯定的な回答の割合を95%以上にする。 ・時間外在校等時間45時間以内を100%にする。									

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。